

2007年度統計関連学会連合大会

市民講演会のご案内

市民講演会は下記のテーマについて、お二人の方に講演していただきます。

日時：2007年9月6日 17:00～19:00

場所：神戸大学（神戸市灘区六甲台町2-1 経済・経営学部本館102号室）

参加費：無料

テーマ：「統計データから見た EU と日本経済・関西経済について」

講演 1：「“戦後最長”景気で日本経済は変わったか、変わるのかー統計データで読む」

講師：飯塚 信夫（日本経済研究センター研究統括部・担当部長兼主任研究員）

要旨：

2度の踊り場局面を乗り越え、日本経済は戦後最長の景気拡大を続けています。こうした長期間の景気回復によって、日本経済は変貌を遂げたのか――。様々な統計データを用いながら、この講演で皆さんと検証をしていきます。

論点としては、

- (1) 主役は引き続き製造業なのか、非製造業の力は高まったか
- (2) 相変わらず、「米国がくしゃみをすれば日本は風邪をひく」のか
- (3) 家計から企業へのバトンタッチはできたのか
- (4) 「ニート問題は景気拡大が解決する」のか
- (5) 景気拡大持続で財政赤字問題は解決するのか、しないのか
- (6) 公示地価がプラスに転じて、デフレ脱却はいよいよ本物になるのか
- (7) 地方景気の爬行性は高まったのか、地域格差は広がったのか

――などを取り上げていくつもりです。

また、今後の日本経済が、短期・中期・長期的に抱えるリスクについても、私が所属する日本経済研究センターの最新予測や各種統計データを通じて示していきたいと思います。

講演者略歴:

一橋大学社会学部卒業（1986年）

千葉大学大学院社会科学研究科修了（2004年）

日本経済新聞社編集局産業部、経済解説部記者などを経て

現在、日本経済研究センター研究統括部 担当部長兼主任研究員

専門は、景気変動論、経済予測、労働経済

講演 2: 「統計データから見た EU と日本経済・関西経済について」

講師: 久保 広正（神戸大学大学院経済学研究科・教授）

要旨:

EU（欧州連合）は、2007年からブルガリアおよびルーマニアを新たに受け入れ、加盟国数は計27ヶ国となりました。その結果、EUは、人口4.9億人、GDP13.6兆ドルに達する巨大経済圏を形成するに至っています。また、2007年からスロヴェニアがユーロを導入し、ユーロは計13ヶ国の間で流通する通貨となりました。一方、EUはIT化を通じた格差の少ない「欧州社会モデル」の構築を目指すなど、日米と異なった経済社会を模索しています。

こうした拡大EUと日本経済は、密接な経済関係を築きつつあります。特に投資交流は目覚ましいものがあります。日本に流入する対内直接投資の大半はEU企業によるものですし、対外直接投資に占めるEUのシェアは常に上位に位置しています。果たして、何故にEU企業にとって日本市場は魅力的なのでしょう。逆に、何故に日本企業にとって、EUは魅力的なのでしょう。

また、関西経済とEUとは歴史的にみても、深い繋がりががあります。事実、関西を基盤にするEU企業は数多く存在しますし、逆にEUに進出している関西企業も多くあります。

本講演では、このような点を統計データにより確認しつつ、今後の日・EU経済関係、さらには関西・EU経済関係を展望したいと思います。

講演者略歴:

神戸大学経済学部卒（1973年）、丸紅株式会社入社

欧州委員会出向（1979年）、丸紅英国会社出向（1985年）

神戸大学経済学部教授、神戸大学大学院経済学研究科教授（1999年）

経済学博士（神戸大）、日本EU学会理事